

2026 **7/20** (月・祝) 14:00-16:00

セミナー

まちづくりと高層建築

萬代橋景観宣言2026 発表

新潟市中央区で高層／超高層建築建設の動きが進行しています。新潟市が推進する「新潟2km」政策の流れの中で国の重要文化財である萬代橋周辺にかけられていた50mの高さ制限が緩和され100mの建築が橋の近傍で可能になりました。新潟まち遺産の会では2022年より8回のセミナー(勉強会・講演会)で、高さ制限の思想と現状、水辺のまちづくり、高層建築によらない中心市街地の再開発の事例、景観と色彩、生きた広場とはなにかなどのテーマでさまざまな方々からお話をうかがってきました。その学びから、このたび新潟のほかの市民団体と連名で「萬代橋景観宣言2026」を発表することになりました。これは2005年に5つの団体の連名で発表された「萬代橋景観宣言」の志を継いでまとめられたものです。本セミナーではこの宣言の内容の公表と説明を行います。あわせて8回のセミナーの第1回「高さ制限とまちづくり」でお話をいただいた大澤昭彦さんに「まちづくりと高層建築」というテーマでお話をいただきます。

大都市圏ではすでに無数に建設されてきた高層・超高層建築は、日本のまちをどう変えてきたのか。高層建築による再開発、旧市街地の活性化、歴史を活かしたまちづくりなどはどうせめぎあい、どう連携しうのか。高層建築の未来は？
新潟市が、より暮らしやすく、心地よい、魅力あるまちになっていくためにと考えるセミナーです。

プログラム

- ・「萬代橋景観宣言2026」について
- ・セミナー
- 「まちづくりと高層建築」 大澤昭彦

大澤昭彦 (おおさわ あきひこ)

1974年、茨城県生まれ。東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻博士課程修了。博士(工学)。東京工業大学大学院助教、高崎経済大学准教授等を経て、東洋大学理工学部建築学科教授。専門は都市計画、景観計画。著書に『高さ制限とまちづくり』(学芸出版社)、『高層建築物の世界史』(講談社)、『正力ドームvs.NHKタワー：幻の巨大建築抗争史』(新潮社、2026年日本建築学会著作賞受賞)など。

- 定員 25名 参加料500円 (新潟まち遺産の会会員無料)
- 申し込み 新潟まち遺産の会へメールで
chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
- お問い合わせ 025-384-0444

主催 新潟まち遺産の会

会場 砂丘館 (旧日本銀行新潟支店長役宅)
新潟市中央区西大畑町5218-1

- 専用駐車場はございません。公共交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用下さい。
- 新潟駅からバス浜浦町線C2系統(バスターミナル9番線)観光循環バス(同18番線)「西大畑坂上」下車徒歩1分



萬代橋景観宣言 2026（案）

●都市環境デザイン会議新潟 ●新潟まち遺産の会 ●NPO法人新潟水辺の会
●公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部新潟地域会

平成17年3月19日に「萬代橋景観宣言」が公表されました。

これは当時萬代橋周辺に広がろうとしていたマンション等の建設ラッシュに反応した市民の思いを示したものでした。新潟市が平成19年の景観計画策定に合わせ信濃川本川大橋下流沿岸地区を特別区域に指定し、50メートルの高さ制限を景観形成基準として位置づけたことに、宣言の思いは反映されました。しかし時代の波が変わり、令和5年にその基準の一部変更がなされ、萬代橋周辺で高さ100メートルの高層建築が建設可能となりました。

萬代橋はふたつの港町（新潟町と沼垂町）を繋ぐ存在として誕生した新潟市の統合の象徴であり、新潟市街地の都市計画・景観形成の基軸ともいうべき重要な存在です。状況の変化を受け、私たちは、これからも萬代橋の周辺に萬代橋を中心とする美しい景観が育まれていくために、萬代橋の周辺での開発行為において配慮されるべき内容を新たな「六連の想い」に具体的に示し、新潟市民の誇りとなる「萬代橋の景観」を育む行動を継続することを宣言します。

（六連の想い2026）

一、 萬代橋から眺める空の広さ、信濃川上流に弥彦、角田を遠望し、港の開放感のある景観は萬代橋の魅力であり、この広さの感覚や眺望が損なわれないように配慮されることを望みます。

一、 萬代橋の周辺にさまざまな位置、高さ、角度から萬代橋と信濃川、船や人々の往来を落ち着いて眺めることのできる場所が設けられ、市民が大切にしたい風景を感じ取れるまちづくり、景観づくりを希望します。

一、 萬代橋の周辺の公開空地は水辺空間に開かれ、人が自然に集い、憩い、使いたく感じる広場となるよう配慮されるとともに、市民、団体、事業者、行政等によって、賑わいを生み出す利用が可能となるよう、柔軟な管理と運営がなされることを望みます。

一、 萬代橋の周辺では信濃川および新潟西港港湾の堤防、さらには堤外地から堤内地への連続性が生れるよう配慮されることを望みます。

一、 萬代橋の周辺に作られる建築物、工作物等は、萬代橋と橋上の人々を圧倒する大きさをもたないこと、またスケールの変化が唐突にならないよう配慮されること、デザイン、色彩、照度、色温度等においては萬代橋との調和や呼応がこころがけられることを望みます。

一、 新潟の民間事業者による新潟への想いが初代萬代橋の建設理念であり市民と行政が意見を交わし合う場が継続的に設けられ、官民の共働によって育まれる「萬代橋の景観」が、新潟市の発展に寄与することを望みます。

*この宣言案は7/20日の正式発表時までに一部修整されることがあります。

【参考】

萬代橋景観宣言

平成17年3月19日 萬代橋景観フォーラム代表 大熊 孝

「萬代橋景観フォーラム」構成団体

●都市環境デザイン会議新潟 ●にいがた寺町からの会 ●新潟まち遺産の会 ●NPO 法人新潟水辺の会 ●NPO 法人まちづくり学校

（本文）

私たちは萬代橋の、構造と美の均衡を意図した設計思想に基づくデザインの質の高さを確認し、信濃川河口の兩岸に広がる「みなとまち」とともに歩んできた歴史に思いを馳せ、さらにそれらが総合して織りなされる風景の価値を守り、活かし、次世代へ継承していくことの大切さを「六連の想い」に示し、ここに新潟市民の誇りとなる「萬代橋の景観」を育む行動を起こすことを宣言します。

（六連の想い）

一、 六連のアーチが萬代橋を支えているように、私たちは萬代橋を愛する市民、団体、事業所、行政等と共に語り合い、連携し、橋周辺の景観の維持、向上に努めます。

一、 萬代橋を取り囲み、萬代橋とともに、また萬代橋から望まれる水辺や都市の風景は、今や新潟市の顔になってきています。その品格と落ち着きの中にも生き生きとした賑わいが創出され、自然と共生する新潟の活気ある都市の姿が、景観として育まれていくことを望みます。

一、 大河信濃川の河口に発展したふたつの「みなとまち」を繋ぐ存在として誕生した萬代橋が今後も「みなと新潟」とともに、新潟市の統合の象徴となり、魅力ある景観を育んでいくことを望みます。

一、 現萬代橋の美しさと機能に深く配慮したデザイン思想を踏襲する、品位ある景観が育まれていくことを望みます。

一、 新潟の民間事業者の新潟市への想いが初代萬代橋の建設理念であり、「萬代橋の景観」がその思想を踏襲した民力による新潟市の発展に今後も寄与することを望みます。

一、 萬代橋のライトアップや航路灯の設置に際しての市民募金に代表されるように、市民に愛され市民とともに歩むまちづくりの象徴として「萬代橋の景観」が育まれていくことを望みます。